

情勢報告

JA 土佐あき営農アドバイザーから学んだ交流現地検討会（嶺北・安芸ユリ部会）



営農アドバイザー(右側手前)に教えてもらう嶺北・安芸両部会の後継者

11月20日、JA土佐あき球根部会は嶺北ユリ部会員(4人)を招き合同現地検討会を行いました。安芸から10人の参加がありました。

部会員から「葉焼けを防ぐには少量多頻度かん水がいい」等の意見や質問が多く出て、交流が深まりました。

振興センターは各圃場を巡回しながら、生育状況について適宜コメントし、さらに今年新設されたJA土佐あき花き営農アドバイザーからも栽培管理法等について指導がありました。また、環境制御技術導入加速化事業の説明も行いました。

今後、振興センターは年内収穫に向け、JA土佐あきとともに巡回、現地検討会の開催で温度管理等を中心に指導します。

中芸地区研究会の開催 ～経験による栽培管理から数値による栽培管理へ～



中芸地区研究会での質問に答える普及指導員

11月26日、中芸地区において、化学・農薬メーカーの研究員を招き、「数値による栽培管理」並びに「しっかり効かせる施肥管理と肥料の特性」に関する勉強会を開催しました。関係者を含め45人の出席があり、厳寒期に適した追肥の方法等について多く質問が出て、熱心な情報交換ができました。振興センターからは生育診断方法と実証圃での調査結果、土壌溶液診断による適正施肥の重要性について説明しました。

今後は、生育診断や土壌溶液の自己診断による適正な管理の実践に向けて支援していきます。

赤野現地検討会で環境制御技術の推進



芸西村生産者(中央)に炭酸ガス施用装置について話を聞く赤野部会員

11月26日、赤野ナス部会(安芸市)22人が現地検討会に参加しました。芸西村で白マルチ、炭酸ガス施用、日射比例灌水等の環境制御技術を取り入れてナスを栽培している生産者の圃場と赤野地区の生産者2人の圃場を巡回しました。

振興センターから環境制御技術等の実証試験について説明の後、生産者からは白マルチ、ダクトの設置方法や灌水回数、灌水量等について質問が出され、環境制御技術への関心が高いことが解りました。

今後も振興センターは白マルチや環境制御技術等の新技術を推進していきます。

JA 土佐あき園芸研究会女性部会がナス勉強会を開催



炭酸ガス施用技術について説明する
普及指導員

11月27日、JA 土佐あき園芸研究会女性部会がナス勉強会を行い、生産者が6人参加しました。

勉強会では振興センターが「厳寒期に向けての栽培管理」について講義し、現地検討会では実証圃2か所で「白黒マルチ+点滴チューブ+日射比例による灌水制御」と「白黒マルチ+炭酸ガス局所施用」の技術を紹介しました。

参加者からは「マルチ設置時の株元の止め方は?」「事業で炭酸ガス施用機を入れるき局所施用もしたいのでダクト設置法をよく見ちゃかんと!」など熱心な質問や情報交換が行われました。

今後、振興センターは継続して女性生産者のニーズに合わせた勉強会開催を支援します。

集落営農組織の活動強化を目指して～第2回集落営農研修会～



「組織で国の制度を活用するには・・・」

11月27日、振興センター主催で管内の集落営農組織の代表者、組織の設立を検討している集落のリーダー、関係機関等の23人が出席し、集落営農研修会を開催しました。

中四国農政局から経営所得安定対策についての説明や県地域農業推進課の講義により、集落営農組織で活用できる政策について例題を参考に研修しました。

出席者からは、「集落に持ち帰って検討したい」「これから集落が生きる力が出た」といった意見が出されました。

振興センターは、今後も研修会などを通して、集落営農組織の活動強化につながるよう支援していきます。

大野倶楽部 第3回食農教育体験交流会



押し寿司きれいにできるかな

12月6日に大野倶楽部は食農教育体験交流会を実施しました。消費者18人が参加し、午前は大野倶楽部の女性部が中心になり旬の農産物を活用した「押し寿司」の作り方を指導しました。また、午後からは、大根を収穫体験するとともに、大根を活用した料理レシピを配布しました。

振興センターは、収穫物を活用したレシピの提案や交流会の運営支援を行いました。

今後も振興センターは、交流会活動が定着できるように支援します。

就農にむけて、研修中！（就農支援研修事業）



空きハウスの設備の確認中

12月8日、田野町担い手育成協議会は研修生の研修状況の巡回と空きハウスの下見を行い、研修生、受入農家及び関係機関の12人が参加しました。

研修生が各ハウスの栽培管理や作業などの研修状況を報告し、振興センターからは摘心位置や施肥・灌水量、温度設定などの具体的な質問やアドバイスを行いました。空きハウスの下見では、受入農家からハウス修繕の助成など研修生の就農時の負担軽減について支援策の要望がありました。

振興センターは、関係機関と連携し、就農準備研修会の開催や空きハウス等の情報収集を進めていきます。

加工用ワサビの現地検討会



適正苗とはどんなの？

12月9日、北川村くぶつけ地区で今年から取り組みが始まった加工用ワサビの現地検討会が開催され、4人が参加しました。JAと振興センターでは、基幹品目であるユズの補完品目として、加工用ワサビを検討しており、今年度は、4戸で試験栽培が始まりました。生産者からは、定植時の適正な苗の状態や定植後の管理、病害虫対策など質問がたくさん出され、熱心な意見交換になりました。

振興センターは、定期的な巡回により生育状態を確認し、ユズの補完品目として導入の可否を検討していきます。

ピーマンの天敵防除の補強に！

～飛ばないナミテントウ（天敵）&スカエボラ（天敵温存植物）現地検討会から～



飛ばないナミテントウを探す参加者（左）
飛ばないナミテントウの成虫（右上）
スカエボラの花（右下）

12月9～10日、芸西村で農研機構（近畿中国四国農業研究センター）が、「飛ばないナミテントウ&スカエボラ」現地検討会を開催し、生産者、JA、業者、県関係機関で延べ87人が参加しました。

振興センターからはピーマン現地実証ほの概要を説明し、生産者らにアブラムシ類防除としてテントウムシ類、天敵温存植物としてスカエボラの有効性を確認してもらいました。

実証農家からは「アブラムシの防除はほぼ大丈夫」問題は「マデイラコナカイガラムシ」と新たな対策も提起されました。

振興センターは、今後も引き続き天敵を中心としたIPM防除技術の改良に向けて支援します。

炭酸ガス局所施用や白マルチに驚き！～第1回ナス品目別現地検討会～



熱心にダクトの設置方法を説明する実証ほ場の生産者

12月11日、県内ナス生産者31人と関係者23人が芸西村と安芸市の炭酸ガス施用実証ほかに集まり、現地検討会を開催しました。

振興センターから各実証ほでの進捗状況を説明し、情報交換会では熊本県や佐賀県での環境制御先進事例を紹介しました。

現地圃場では「株元への炭酸ガス局所施用」「株元加温」「白マルチ」などの設置方法やコストなどについて熱心な質疑応答が行われました。

今後、第2回ナス品目別現地検討会を2月に開催し、環境制御技術を広く推進していきます。

JA 土佐あき安芸支部トルコギキョウ部会の現地検討会



雑草が多いねえ

12月11日、JA 土佐あき安芸支部トルコギキョウ部会に4人が参加し現地検討会を行いました。

振興センターは、ほ場を巡回しながら、導入された新品種の特性解説や今夏は曇雨天が続いたことからサウナ処理の効きが悪く、立枯病が多発、また雑草の枯死率も低かったことから、現地実証で行っている土壌還元消毒法の実施方法や利、欠点を紹介しました。また、環境制御技術導入加速化事業の説明も行いました。

今後、振興センターでは、極寒期に向けての管理方法について指導していきます。

唐浜集出荷場ピーマン部会（赤ピーマン）の開催



ハウス内の環境データがパソコンで見れるんですよ

12月12日に唐浜集出荷場ピーマン部会が開催され、5戸の農家が参加しました。現地検討会では、今年振興センターが実証している新規昆虫寄生菌（メタリジウム菌）やクロヒョウタンカスミカメ、タバコカスミカメ導入ほ場を巡回し、実証調査の中間結果を踏まえアザミウマ類防除について今後の対策等の議論がされました。また、環境制御装置を導入している生産者からハウス内環境データの紹介や振興センターが行っている生育調査結果を紹介することで、環境制御技術や生育診断に対する関心が高まりました。

今後も振興センターは関係機関や部会と共に唐浜赤ピーマンのIPM技術の確立や環境制御技術の普及に取り組みます。

平成26年度室戸市農林祭農林産物品評会



品評会会場

12月14日、JA土佐あき吉良川支所羽根事業所で表記の品評会が開催されました。出品数は111点で審査は振興センターとJAの職員で行いました。その結果、知事賞はナス、市長賞はピーマンのほかJA土佐あき組合長賞、園芸連会長賞など各賞が決まりました。

来場者からは、受賞した農産物は色やツヤ、果形の揃いが良いという声が聞かれました。

振興センターでは地域農業の振興はもとより、品評会等を通じた交流活動にも係わり、農業への理解と地域の賑わいを応援していきます。

JA 土佐あき消費拡大連絡協議会活動～東洋町でポンカンの収穫体験を開催～



収穫方法を説明する普及指導員

12月17日、JA 土佐あき消費拡大連絡協議会芸東支部が東洋町でポンカンの収穫体験を開催し、地元の保育園児14人が参加しました。振興センターから、東洋町が県内一のポンカン産地であることや、収穫方法について説明を行った後、実際に収穫し、試食も行いました。園児からは、「大きいポンカンがとりたい」「おいしい！もう一個食べたい」といった声が聞かれ、地元のポンカンについて楽しく勉強ができました。

今後も振興センターは同協議会活動を支援し、地域農産物の消費拡大に繋げていきます。

最新の地下部管理を学ぶ！～土佐あき新施設園芸システム勉強会～



自分の栽培管理を説明するピーマン生産者

12月17日、生産者30人と関係者17人が参加してJA 土佐あき本所で「土佐あき新施設園芸システム勉強会」が開催されました。

今回のテーマは「地下部」の環境制御で、オランダ園芸に精通した資材メーカーの技術アドバイザーによる養液栽培での養水管理の理論を学びました。生産者3人が実際の養水管理事例を発表し、改善点などを協議しました。

振興センターからはピーマンの生育診断の調査項目とその基準値を提案し、地下部の管理や生育診断手法について議論を深めました。

今後、振興センターでは、1月に勉強会部員と共に県外の環境制御先進地調査を行い、情報の収集・共有を図ります。